

## 長岡から中四国・九州へ国産米使用の米菓を鉄道輸送

岩塚製菓(株)は1947年、新潟県長岡市創業の大手米菓メーカーだ。原料のお米には、地元新潟を中心に厳選して仕入れた国産のみを使用し、「黒豆せんべい」「味しらべ」「田舎のおかき」など約300種の米菓を製造・販売している。

日本を含め世界が向き合う課題となっているフードロス削減と作業効率改善に向け、岩塚製菓の商品もさまざまな観点から試験を重ね賞味期限延長を進めている。ソーシャルコミュニケーション室の中静幸徳室長は「賞味期限は各メーカーで決めます。やはり作りたてが一番おいしいので、お客さまにはできるだけ早く食べていただきたい」と説明する。



「岩塚の黒豆せんべい」

生産拠点は長岡市内3カ所と北海道千歳市の計4カ所。長岡の工場で製造した商品は、同じく市内にある(株)魚沼運輸 新産倉庫に集約され、そこから仕向け先により北海道は船舶、中四国・九州地方は鉄道、それ以外はトラックを利用して運んでいる。

### DCを活用し鉄道輸送を開始

鉄道の利用は2015年10月、福岡向けから始まった。生産と輸送計画を担当する生産管理部の大石隆行課長は、「それまでは鮮度を最優先して在庫は極力持たず、福岡向け



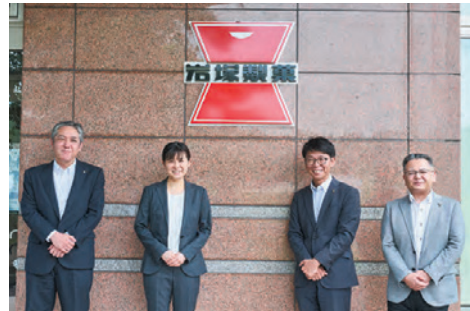
本社・飯塚工場



市内の仕込み工場から焼き工場へ生地を運ぶ岩塚製菓のトラック



黒豆せんべいの製造ライン



左から生産管理部 五十嵐部長・佐藤主任・大石課長・ソーシャルコミュニケーション室 中静室長

も夕方トラックで出荷し、翌々日お客さまへ届けていました。燃料費の高騰でこの仕組みの継続が難しくなったことから日本通運に相談したところ、鉄道コンテナの提案がありました」と経緯を振り返る。現在は日本通運の集配トラックが新産倉庫で集貨し、そこから7kmの南長岡駅で鉄道に載せる。福岡(夕)には翌々日に到着する。

生産管理部の五十嵐忠憲部長は「輸送日数を考慮し、安定してお届けするため福岡県宇美町のDC(在庫型物流センター)と契約し、3~4日分を保管する仕組みにしました」と話す。包材の技術が進み、品質がより長時間担保できるようになったことも背景にあるという。翌年2016年9月に岡山向け、次いで広島向けと鉄道へのシフトを拡大。どちらも到着地のDCで商品を一時在庫している。

月~土曜の毎日、福岡(夕)と岡山(夕)に向けそれぞれ12ftコンテナ最大6個を発送する。1カ月当たりの最小限の発送個数も日本通運と取り決めている。

生産管理部の佐藤彩主任は「遠方にも在庫を持つことになり、商品の日付管理が複雑になりました。お客さまごとに受け入れ可能な賞味期限も異なるので、そちらも気をつけながら出荷量を決めます。福岡向けの場合、米菓の売り上げが全体的に落ち込む夏場は4個程度ですが、年末年始の



魚沼運輸の新産倉庫に製品を集約



日本通運の集配トラック



12ftコンテナに積み込まれた製品

需要のピークに備え、11月頃から計画的に連日上限の6個を送り込み在庫水準を上げ、お客さまにご迷惑をお掛けしないようにしています」と話す。

米菓など菓子類は春の行楽シーズンも繁忙期を迎える。昨年5月6~7日、岩塚製菓は同じ新潟に生産拠点を置く米菓メーカー各社と共同で、製品を「お菓子専用列車」で輸送した。この列車は新潟(夕)・岡山(夕)・福岡(夕)間を運行し、例年ゴールデンウィークに連休となるダイヤが活用された。佐藤主任は「繁忙期に通常便とは別に出荷でき大変助かりました。今後も続けてほしい」と期待を寄せる。

こうした取り組みを含め、昨年1~12月の鉄道利用実績は、福岡向けで12ftコンテナ1,349個、岡山向け1,333個、広島向け60個に上る。近年、四国・九州での売り上げが好調なことにより、年々増加傾向だという。



新潟(夕)を出発するお菓子専用列車

北海道工場では、主に道内向けの商品を製造している。長岡から船舶を利用して運んだ生地を焼き上げ、味付け、梱包し出荷する。

中静室長は「地域の農産物を使った北海道工場オリジナル商品も生産しています。数年前より、北海道ブランドを生かし、これらの商品を関東・関西の北海道フェアなどで販売しています。輸送コストを抑えるため、受注量の基準は12ftコンテナサイズとし、鉄道利用を推進しています」と明かした。



南長岡駅で貨物列車に積載

### 荷役効率改善に向けパレット化検討

商品は12ftコンテナに手荷役で積み込まれている。コンテナ1個に約550才\*積載でき、段ボールサイズが約1才の「黒豆せんべい」の場合は500箱以上になる。

五十嵐部長は「コンビニ向けの商品は3分の1程度のサイズになるので段ボールの数がさらに増えます。商品が軽い菓子業界ではなかなか進んでいませんが、今後パレット化は必須と考えています。まずは主力商品『田舎のおかき』でパレットサイズに合わせて段ボールを変更するモジュール化を行い、トラック輸送で検証を始めました」と荷役作業の効率化に向けた取り組みについて話す。12ftコンテナで行った同様の検証では積載率の低下に加え、すき間ができることから段ボールが擦れ、破損率が手荷役と比べ数%増えることがわかり、まだまだ課題があるという。

冬は豪雪地帯となる長岡地区。佐藤主任は「悪天候等で連休が予想される場合は、早めに送り込み、トラック輸送も活用するなど事前の対策が必要です。連休の判断はできるだけ早めをお願いしたい」と要望す。最後に大石課長は「当社の商品には原材料へのこだわりや品質への思いが詰まっており、その思いを預かる岩塚製菓の最終責任部署として、信頼のあるJR貨物とパートナーシップを結んでいます。貨物鉄道の利用は当社が取り組む自然環境の保全にもつながる活動です。連携を今後も続けていきたい」と話した。

\*貨物の容積を示す単位で1才は1辺1尺(約30.3cm)の立方体